

様式（第3条関係）

## 東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都千代田区内神田 2-1-13
園名	ベネッセ内神田保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

木・自然

<テーマの設定理由>

・日ごろ子どもたちが触れている木製品（積み木）に着目し、そこから自然・木に興味関心を深める為、【自然・木】をテーマとして設定。

### 2. 活動スケジュール

主に幼児クラス（3～5歳異年齢）が散歩の時間（9：00～12：00）に活動を行う。散歩で持ち帰った枝や木を削ったり切ったりして遊ぶ。子どもの声から活動日を設定する。積み木は自由遊びとして保育室内に環境を常設しながら、子どもの興味が高まった際に1Fホールでの遊びを開始した。

### 3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

環境設定：屋上にのこぎり、やすりコーナーの設置

保育室内に制作コーナーの設置

1Fホールに積み木コーナーの設置

使用道具：のこぎり、紙やすり、鉄やすり、ボンド

使用素材：木の枝、木っ端、麻ひも、積み木

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ①サークルタイムにて子どもたちに身近にある木製品はどのように作られているかを問う
- ②日比谷公園に行き、木を拾ったり、紙に模様を写して遊ぶ
- ③拾った木にやすりがけをし、つるつるになっていく様子を体験する
- ④のこぎりを使って細かく切る
- ⑤組み合わせて遊ぶ
- ⑥積み木遊びを行う。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・日比谷公園での木の幹や枝の感触を確かめながら「ザラザラしている」「皮がフワフワ」などの声が聞かれた。やすりで削ると「つるつるになった」「木のおいがする」「中は白いね」と素材の変化をそれぞれの感性で捉えていた。保育者は保育ウェブを用いて子どもの言葉を視覚化しながら興味を広げられるようかかわった。環境を細目に変化させることで子どもの興味が途切れないようにした。

#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た職員の気づき>

- ・子どもたちが自ら興味を持ち、取り組み始めた物事に対しての探求心が強く、「子ども主体」の大切さを改めて感じた。
- ・興味が下降気味になった際も環境を用意する事でまた再燃し、継続できた。
- ・一つの取り組みについて大人同士で密に話し合い連携をとって活動を展開させていく楽しさに気が付いた。
- ・同じ題材で長期間遊びこむことで子どもの関心や疑問が変化していく様子を捉えることが出来た。
- ・一つの活動を継続的に行う事で他の活動（あそび）においても、その先を考えたり、話したりすることにつながり、子どもも大人も楽しさからどんどん広がっていった。
- ・「できない」ではなく、「どうやったら出来るか」と考えるようになった。
- ・子どもの想像力が豊かで、迷うことなく木っ端で作品を作っていた。





## 大きさや形のちがう木をくみたてるには??

まずは屋上で  
今日何をやるのか説明を聞きます。



「どうやってやるんだろ?」

木をつけるため、今回はボンドを用意しました

つみ木をくみ立てた時と丸い木をくみ立てた時と  
何がちがうか、まずは保育者がやってみました。



丸い木はちがうね

「つみ木は四角だからやりやすい!!」  
と気づいたキナーさん

自分たちで選んだ木をボンドでくっつけて形にしていけます。

これとこれはちがうかな...

どうやってくっつけようかな...



この二つをくっつけるには...

大、小、大きさのちがう木を  
くっつけるにはどうしたらいいのかな...

説明を聞いた後、みんなで木をえらびました。

「こっちはどうかな?」



「どれがいいかな?」

まずは机の上でくみ立ててみます。



最初はうまくできなくて苦戦しながらも、コツをつかむと次々作品ができました。



「こうしたらくっつきやすくなるね」と気づいた子も



木の断面を見て  
サササビザザザ  
があるのを発見



こんなに大きな木  
もくみつけたよ!!  
と元気がいい  
散らしてあげました。

キナー全員で作った作品達。

大小の木をくみあわせて、素敵な作品が  
できました。



外で見つけてきた木をやすりをつけてやすんだ後、のこギリで切って並べてみました。  
つみ木をくみ立てると木をくみ立てるのでは、何がちがうのか、どこが難しいのかを  
話し合いながら、実際に木をくみ立ててみました。つみ木と形がちがうので、うまく組めなかったり、  
思いがけいいた形にならなくて、思考錯誤していましたが、大きい木と小さい木をくむときは  
順番を考えてくっつけたらいいと気がついたり... やりながら自分たちで考えて作っていました。  
今度は他の木をつかって、自分できめたものを作っていき、経馬券をしていきたいと思ひます。

# "作りたい"を形にできた!

形の違う木材をたくさん準備しました。



木で作った  
さまざまな作品  
を見て「面白い」と  
言葉を交して  
作りたい物の  
イメージをみくほ  
せていました。



"木材"をクラスを中心に置き子どもたちが  
どんな反応をするのかしげましました。  
"なにこれ"と言う言葉も聞き子どもたちが  
興味をもち木工活動がはじまりました。

フレンドは探検者と話し合い  
なかにとれどれが"イメージ"を  
共有し"面白い"、"すごいね"と  
会話が生まれていました。



木材選びでは「面白いも」「おもしろい」とイメージに近い  
物の見つけポイントを使い組み合せます。



作りたい物を決め画用紙を使って絵を描きます。  
ペッド・ドアなど一人ひとりのイメージが表れています。



できあがった設計図を  
もとに木材を拾ってきて  
組みあわせるイメージを  
物物にしてみました。



"どあれ?","なにこれ"と  
使われるイメージがわがずとまどろ  
けも見られました。



筆を使って細かな部分にも  
ポイントを使います。

イラストやイメージで描いていた物を  
より現実に近づけるために  
細い針を使って色を塗りました。

設計図を横に置きながらポイントを使って木材を貼り合せていきます。  
フレンドが作りあげた作品を見て"ことごとく立体造形が"  
つく覚悟しました。保育者の声かけで"木をやすらじ、ポイントどおりに  
切ておきたい"と子どもから自らおたて"体験"しました。



設計図を元に"これは木だ"  
"いい感じ"と図がある  
ことで迷うことなく  
自分の"作りたい"と形に  
する中で得意になる  
子どもたちの表情が  
みられました。

ポイント、アクテプよりもより作りたいものをリアルに  
作りあげました。そのために何度もお話し、保育者や  
友だちと話し合いながら"作りたい"を形にしてみました。



木をやすらポイントを使い組みあわせる活動を通して、イメージを形にする楽しさを体験しました。木を保護意識がもたらした木材を使った活動を取り入れることで子どもたちの"やりたい"を最大限に引き出すことができました。フレンドは頭の中で描いていたものをすぐに形にする作業に取りかかりました。ポイント・アクテプは頭の中のイメージを画用紙に描くことで、作る時にどんな形が必要なのかを覚えることができた。設計図があることで、一人ひとりが"不中にならず"自分の作品を作ることに自信を持ち取り組んでいました。とれどれが"いい"は道具を使い"作りたい"を形にすることができ、達成感とどんなことでも挑戦する楽しさを体験することができた。これが子どもたちにとって大切なことを探求できる場所や環境を作ってきたと思います。

# ぐねぐねの枝も、かくかくのつみ木も どちらも木だった！

日比谷公園でたくさんの木を見て、それを採取するところから始まったキンダーさんの“木”遊び。  
日頃遊んでいるつみ木も“木”であることに気がつき、どのようにできているのだろう、という疑問を抱きました。そこから、木の皮をむいてみたし、のこぎりで切ったし、やすりで表面をやったし、それらを組み合わせて遊んでみました。そして、「木でできたつみ木だから、本物の木も作れるはず！」と、キンダーさんのつみ木遊びが始まりました。

公園で拾った枝と違って、まっすぐだなあ！

割りはしの白いがする？！



割りはし木でできてるんだよ！

実際に見て、みんなで団んだ太い木。それを思い出しながら、つみ木の大きさを決めました。



作り方のつみ木と違って、まっすぐ積めるね！

どうしたら、強くて崩れにくい木になるかな？

⇒ 間に長いつみ木を入れたらどうかな？

たくさんつみ木。まずは色や形で種類別に分けてみました。

フェリジクリスマスツリー完成！

白いつみ木はやった木と同じ色だね



ねえねえ！新しいつみ木の方が木のいい匂いがするよ！

ほめた？！いい匂いだね！あれ、色も違うよ、なんでだろう...



新しいつみ木と古いつみ木を比べてみると、新しいつみ木の方が、ザラザラしてて積みやすいことに気がつきました。



本物の木は、枝が生えててごつごつしてたなあ...

長いつみ木をさしてみる？

子どもたちの「行きかき」話した設計図から...



⇒



こんなにすてきな木ができました！

日頃慣れ親しんでいるつみ木ですが、一連の“木”遊びを経て、けれど見え方が変わってきたキンダーさん。はじめは、「つみ木はツルツルで、生える木はザラザラだね」などと、つみ木と木の違いに着目していましたが、本物の木を切ったしやすったしと、様々な方法で触れ、また同じつみ木でも新しい木と古い木を比べる中で、「木の皮の中はつみ木と同じ色だよ」「つみ木もだんだんツルツルになっていくのかも」と、木とつみ木の繋りに気がつきました。小さな疑問や興味から始まった“木”の遊び。身近な物の素材を考えることで、物の性質についての発見や理解がありました。やってみたいこととことん遊び込む経験を通して、たくさんひらめきや試考錯誤を経て、思考力を深めることができた。